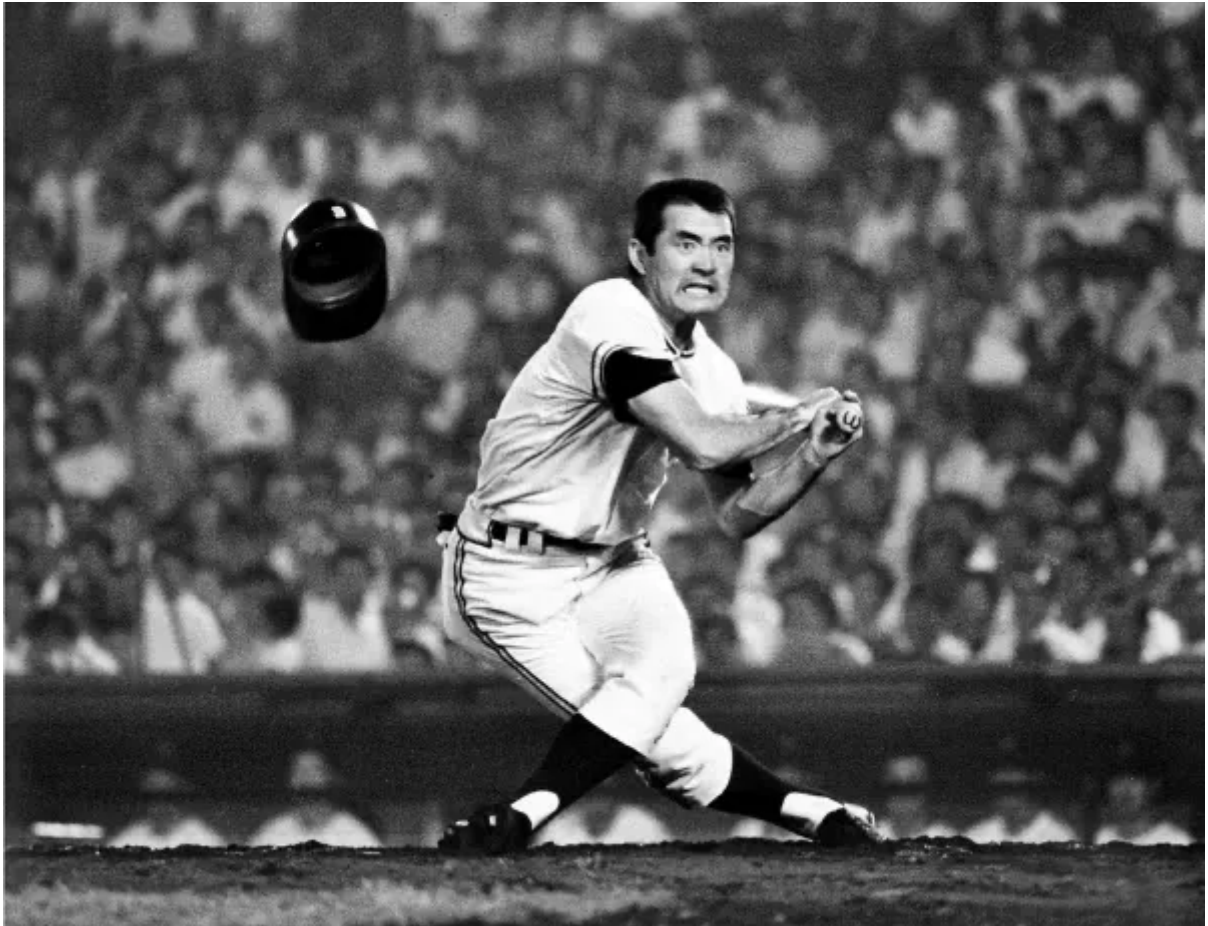


# アート・オブ・ベースボール（10） 遠藤忠「長嶋茂雄ヘルメット飛ばす」

スポーツ文化評論家 玉木正之

2021/3/1付 | 日本経済新聞 朝刊



産経新聞社提供

この一枚の写真が雑誌『Number』創刊10号の表紙を飾ったときは、ぶっ魂消（たまげ）るほど驚いた。

長嶋茂雄というプロ野球選手がどれほどスゴイ選手（プレイヤー）であるか、私は十分に知っているつもりでいた。小学生の時から白黒テレビで見続け、大学生として上京した後は球場に何度も通った。だからゴロの打球をサイドステップで鮮やかに処理して美しく指先まで伸ばして一塁へ投げる姿も、クロスプレイでなくても激しく土煙を巻きあげてスライディングする姿も知っていた。が、これほどダイナミックな空振りには知らなかった。

スポーツライターの仕事をして長嶋氏にインタビューする機会を得たとき、私は最初に三振について訊（き）いた。鏡の前で帽子の飛ばし方を練習されたのは本当ですか？ すると「どうせ空振りするなら少しでもいい空振りを観客（ファン）の皆さんにお見せしよう」と意識しました」との答えが返ってきた。

ちなみにこの見事な空振り写真は新聞社ではボツ。試合の勝敗には無関係の空振りだったのだ。

しかし、この姿こそ野球（ベースボール）という素晴らしい球戯（ボールゲーム）の見事な瞬間というべきだろう。

「野球には勝つことよりも大事なものがある」（フィリップ・ロス『素晴らしいアメリカ野球』より）

それは、おそらく「美」なのだ。

野球とは「美」の瞬間を味わうことが目的の不思議なスポーツなのだ。

（1968年）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.